

カナダ金融政策（2026年9月）

政策金利は据え置きだが、インフレ見通しの上方リスクが高まる

2026年9月3日

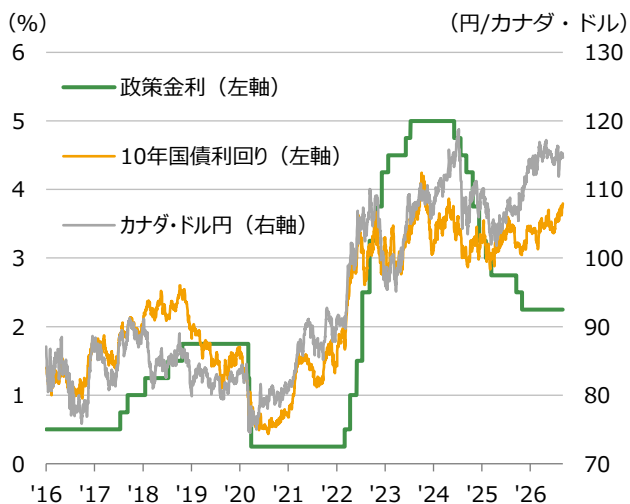
年内は政策金利の据え置きを予想するが、利上げ前倒しの可能性も

カナダ銀行（中央銀行）は9月2日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を2.25%に据え置くことを決定しました。据え置きは7会合連続です。

声明文やマクレム総裁の会見では、足元の経済はおおむね7月会合時点の予測に沿って推移し、景気回復は幅広い分野に広がったとの認識が示されました。そうした中、長引く中東紛争によるエネルギー価格の高止まりや、米国との新たな貿易摩擦（米国が8月22日にカナダからの一部輸入品に50%の追加関税を発動し、カナダは9月8日に報復関税を発動予定、など）によって、インフレ見通しは上方リスクが高まったと述べられました。一方、関税の応酬で経済成長の見通しを巡る不確実性は一段と高まったと指摘しています。新たな関税の対象は対米輸出の約5%であり、政府の支援によって影響は一部緩和される見込みですが、企業が投資や採用を先送りする可能性はあるとしています。声明文では「景気回復の持続性とインフレ見通しを評価し、必要に応じて金融政策を調整する用意がある」とし、マクレム総裁が景気下振れよりもインフレ上振れへの警戒感を強く示したことで、市場は金利上昇とカナダ・ドル高で反応しました。

基調的なインフレ率は落ち着いており、通商交渉の不透明感が景気回復を遅らせることで、カナダ銀行には様子を見る余地があると考え、当社は年内の政策金利据え置きを予想しています。しかし、経済が想定以上に堅調に推移し、また物価上昇の広がりが見えれば、早期に利上げに転じる展開も考えられます。

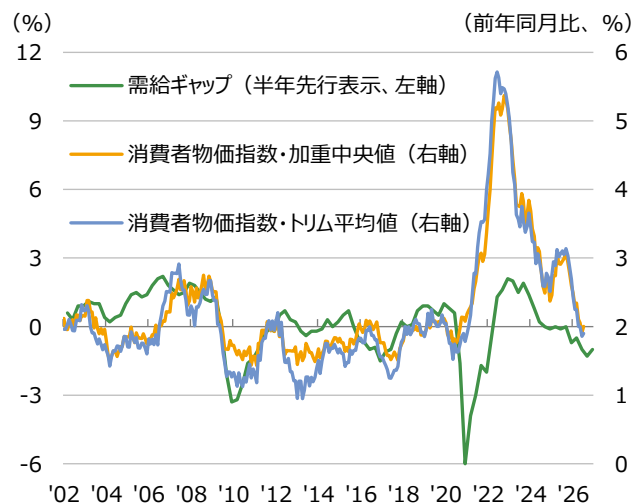
カナダの金利と為替



※直近値は2026年9月2日
※政策金利は決定日ベース

（出所）ブルームバーグ

カナダの需給ギャップとインフレ率



※直近値は需給ギャップが2026年4-6月期、消費者物価指数が2026年7月

（出所）カナダ銀行、カナダ統計局より大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント